



勝山南部中学校だより



第12号 R6.3.1 文責：田邊 千智

左義長祭りが久しぶりに賑わいを見せ、勝山らしい春の訪れを感じました。左義長の時期には小雪が付きもの。ちらちらと降っては消える春の雪が左義長にはふさわしいです。

三寒四温、春の足音もすぐそこまで来ていますが、寒さが急にぶり返すこともあり、体調管理には気を付けたいところです。卒業式まであと少し。この勝山南部中学校を巣立つ3年生を、みんなで晴れやかに送りましょう。春休みももうすぐですよ。

〈3月の行事予定〉

- 1 (金) 県立高校二次募集期間～4日
- 3 (日) 市民体育大会スキー競技
ジャイアントスラローム ⇒ 中止
- 4 (月) ⑤ようこそ先輩 (1年生) ⑥委員会
全体研究会
- 5 (火) SC12:00～
- 6 (水) ⑥卒業を祝う会
県立高校二次募集
- 7 (木) ①②卒業式予行
③④卒業式準備
⑤同窓会入会式 (3年生)
1, 2年生給食なし
- 8 (金) 第50回卒業証書授与式
- 11 (月) 職員会議 全体研究会
- 12 (火) 生徒朝礼 SC12:00～
- 13 (水) ⑥生徒会役員選挙
- 17 (日) 資源回収
- 19 (火) ①②確認テスト
⑥勝山高校交流会 (2年生)
道守高校通信制出願～23日
- 20 (水) 春分の日 大野市民卓球大会
- 21 (木) ①②③確認テスト
⑤教室移動 ⑥大掃除
- 22 (金) 修了式 離任式
- 25 (月) 学年末休業～31日

【令和6年度】

- 4月1日 学年はじめ休業～7日
新入生クラス発表 10:00
PTA 役員引継ぎ会
- 4月8日 新任式 入学式 始業式



輝け The 南中～表彰の記録 (敬称略)～



- ★じんけん標語コンテスト 中学生の部
優秀賞 藤田 結衣 齋藤 綾奈
- ★第69回市民体育大会スキー競技クロスカントリー
中学女子の部 優勝 向井 穂香
- ★第37回福井県ジュニアスキー選手権大会
クロスカントリー競技 中学男子の部
複合5kmC+5kmF 第3位 滝本 弦太郎
- ★第46回福井県版画コンクール
金賞 鳥山 結楠
ライオンズ賞 林 美結
- ★第42回市小中学生版画コンクール
特選 大久保 日向 鳥山 稜貴
向井 穂香 畔川 優杏
- ★県民スポーツ祭
クロスカントリースキー競技 スプリント中学男子の部
第3位 滝本 弦太郎
- クロスカントリースキー競技 クラシカル3km 中学男子の部
第2位 滝本 弦太郎
- ★第71回福井県小中学生書き初め展 特選
石黒 遥花 伊藤 未来 中村 実結乃 山内 莉乃
横山 鉄芯 小林 葉奈 平林 美結 安岡 倫太郎
齋藤 綾奈 藤田 結衣 和田 ゆきの 高田 勇豊
坂本 麗名 小林 颯太 島田 忠勝
- ★第63回福井県小中学校図画作文コンクール
作文の部 銅賞 永井 佑奈

【3年生の保護者の皆さまへ】

3年間本校の教育活動に多大なご理解とご支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。おかげさまで無事60名の卒業生を送り出すことができそうです。ありがとうございました。

3月8日の卒業式にはお子様の晴れ姿をぜひご覧ください。お待ちしております。

生徒たちの日々の活動の様子は「勝山南部中学校ブログ」で検索して、是非ごらんください。学校だよりでは紹介しきれない写真や行事、取組を紹介しています。こちらのQRコードでブログにとぶことができます。なお、ウェブページには学校からの情報・配布物などがアップされていますので、併せてご覧ください。



【2月26日 生徒総会】

それぞれが、会計報告や取り組んだこと、反省や次年度への課題について報告しました。質問、回答など双方向のやり取りがあったよかったです。良かったです。



【卒業前の3年生に・・・】

「租税教室」「性教育講演会」「薬物乱用防止教室」が行われました。義務教育終了という節目に知っておいてほしいことはたくさんあるのです。自分のことは自分で守れる人になろう。



【部活動】冬季間でも大会がたくさん開催されています。外の競技もインドアで大会が開催されることが多くなり、活躍の場が増えましたね。クロスカントリースキーでは、3名が全中に参加しました。文化部も吹奏楽部のアンサンブルコンテストや校外部のプログラミング大会など南中生が頑張っています。



【3年生探究】3年生の総合的な学習の総まとめ。探究的な学びの発表会、南中ラウンドテーブルです。様々なテーマがあり、2年生も真剣に聴いていました。ブースがたくさんありすぎて、全部を回れなかったことが残念でした。



【校長室のひとりごと】小3ごろのお話。学校で、ある男子がニヤニヤしながら「お前のかあちゃん、バーのホステスなんやってな〜。」と言いました。私は家に帰って「こんなこと言われたわ。」と母に告げました。母はいたくショックを受けたようでその後バー（姉の店）を辞め、自分で小料理屋を開きました。私は全く動じていなかったのですが、母は自分のことで私が貶められたと思ったようです（後に祖母から聞いた）。職業に貴賤はないと思っていますが、あの頃は確かにそういう風潮があったかもしれません。さて、何が言いたいかというと。

10歳の子どもですから「バーのホステス」がなんなのかわかっていなかったらと思うのです。きっと彼の家族や周りの大人がそういう言葉を彼の耳に入れ、彼は彼なりにこの言葉は相手を蔑んだりするのに使えろと学び、なにも考えずに、私に対して優位に立つために使ったのでしょう。子は親の鏡とはよく言ったものです。周りの大人の言うことを子どもは結構しっかり聞いています。大人になってこの出来事が意味するところがわかってから、自分も気をつけようとずっと思っています。

